



IB 教育特集 第3号 一生の財産となる「思考の力」 ～概念・文脈・ATL スキル～

「答えのない時代」を生き抜くために必要なのは、単なる知識の量ではなく、その知識をどう使いこなすかという「知恵」の形です。IB 教育では、その知恵を支えるための強力な『思考の力』を身につけていきます。今回はその中身である、学びの深さを決める「16 の概念」、学びを現実社会につなげる「グローバルな文脈」、そして一生モノの学び方を習得する「ATL スキル」の 3 点について詳しく紐解いていきましょう。

1. 知識をつなぐ^{がいねん}概念——時代が変わっても風化しない知恵

IB の探究学習では「16 の重要概念」を授業の中心に置いて学習を進めていきます。概念を学習していくことで、今学習している内容を、以前学習した内容と結びつけて考えてみたり、社会問題と結びつけてみたり、その教科で学んだことを他の教科の学習に応用したりすることが可能になります。

美しさ	変化	コミュニケーション	コミュニティ
つながり	創造性	文化	発展
形式	グローバルな相互作用	アイデンティティー	論理
ものの見方	関係性	システム	時間、場所、空間

例えば、「変化」という概念を複数の教科で扱ったとします。国語で小説を読み「登場人物の価値観や心情の変化が、ストーリーの展開にどのように影響したか」を考え、理科の実験で「物質の変化に必要な条件に共通性はあるか」という問いに挑戦し、保健体育では「相手のフォーメーションに応じて自分たちの戦術をどのように変化させることができるか」を議論します。このように様々な視点から「変化」という概念に触れることで、「変化」に対する理解が広がったり深まったりしていきます。

また、重要概念以外に、各教科で定められている、その教科に関連する概念（関連概念）があります。関連概念は教科によって様々ですので、単元で扱う際に教科担当から個別に説明していきます。

2. グローバルな文脈 (Global Contexts) —— 「なぜこれを学ぶか」への答え

「この勉強、将来何の役に立つの？」よく抱くこの疑問に答えるのが「グローバルな文脈」です。IB の中等教育プログラム (MYP) では、すべての学習を以下の 6 つの文脈のいずれかに関連づけます。

- アイデンティティーと関係性 (自分とは何者か？ 他者どう関わるか？)
- 空間的・時間的位置づけ (歴史や場所が、今の自分にどう影響しているか？)
- 個人的表現と文化的表現 (私たちはどうやって自分を表現し、創造するか？)
- 科学技術の革新 (科学の進歩は、私たちの生活をどう変えるか？)
- グローバル化と持続可能性 (世界はどう繋がっていて、どう守るべきか？)
- 公平性と発展 (誰もが平等に幸せになれる社会とは？)



数学の方程式を解く際も、「科学技術の革新」という文脈で捉えれば、それが宇宙探査や AI 開発にどう貢献しているかが見えてきます。「学び」と「現実の世界」を接着する役割を果たすのが、このグローバルな文脈です。

これらのグローバルな文脈に基づいた学習に取り組むことで、学習した内容や学習する意味をより自分事として捉えることができるようになります。そして常に、自分以外の世界（ローカル社会・グローバル社会）に目を向けることができるようになります。

3. ATL スキル（学習の仕方）—— 学び方を学ぶ

ATLとは、“Approaches to Learning”の略で、「学習の方法」と訳されます。これは「何を学ぶか」ではなく「どう学ぶか」という技術のことです。あらゆる場面において、IOの「IBの学習者像」に近づき、実現することを目指します。そのために手段としてATLを用います。あらゆる場面や学習の中で、ATL スキルを身につけ、伸ばしていくことができます。すべての学習の中で多くの ATL スキルを活用し、効果的で効率の良い学習方法の促進や学習のプロセスの振り返りに役立てます。

大学や社会に出たとき、最も必要とされるのは「自分で計画を立て、情報を精査し、他者と協力して形にする力」です。MYPでは、以下の5つのスキルを日々の授業の中で意識的にトレーニングします。

ATL スキルのカテゴリー	MYP の ATL スキルクラスター
コミュニケーション 情報をやり取りする力だけでなく、相手の意見を理解し、自分の考えを効果的に伝える。	1. コミュニケーション
社会性 他者と協力し、共通の目標に向かって取り組む。	2. 協働
自己管理 感情をコントロールし、計画的に物事を進める。	3. 管理・調整 4. 情動 5. 振り返り
リサーチ 必要な情報を見つけ出し、その信頼性を評価して活用する。	6. 情報リテラシー 7. メディアリテラシー
思考 批判的（クリティカル）かつ創造的に考え、複雑な問題を解決する。	8. 批判的思考（クリティカルシンキング） 9. 創造的思考 10. 転移

4. 地域・保護者の皆様へ：新しい学びを支える「問いかけ」

これらの「概念」「文脈」「ATL」は、学校の中だけで完結するものではありません。地域でのボランティア活動中に「これは『公平性』という文脈だね」と気づいたり、家庭で宿題をするときに「今日はどうやってリサーチしたの？」と ATL スキルに注目して、これらの言葉を使って声をかけたりすることで、子どもたちの学びはより立体的になります。目先のテストの点数以上に、「どう考え、どう動くか」というプロセスの成長を、ぜひ温かく見守り、励ましていただければと思います。

